

●ゼミナールハウス

<p>前回検証結果</p>	<p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境の変化や施設の機能を踏まえ、設置目的を再検証し、施設のあり方について検討を行うこと。</li> <li>・施設の内容に合致した営業の戦略（マーケティング戦略）による利用率の改善を図ること。</li> </ul>																				
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等における宿泊を伴わない研修の増加等社会環境の変化に応じて、施設の豊かな自然環境を活かし、ニーズが高まっているアクティビティやアウトドアなどのイベントと連携し、施設利用につながる取組を実施。また、研修室等の採光や開放感を高め、快適な研修環境を整えるとともに、多彩な文化講座等様々な年齢層が利用できる取組を展開。</li> <li>・観光庁事業（R3、R4）を活用し、新たな地域資源と事業展開の可能性を検討中（地域の事業者や森の京都DMO等と連携による京北地域を自転車で巡るモニターツアー、アウトドアサウナ作りワークショップ、遊具DIYワークショップ、トークイベント等の実施。コロナ後の施設の利用拡大と地域活性化につなげるためのアウトドア利用客等に向けた商品開発等）。</li> <li>・京都商工会議所への加入と会員へのPR、コンサル等への定期的な経営相談を実施。令和3年度に、若者や企業等の利用拡大を目指し、HPを京北の魅力と施設紹介動画を含む内容に全面刷新するとともに、府観光連盟や森の京都DMOと連携した旅行会社や教育機関等へのPRを実施。令和4年度においては、学生や企業、第2のふるさとを求める層などターゲットを絞った内容に取り組んだ。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症による休業からの利用再開に向け、顧客リストを活用したPRを実施。</li> </ul>																				
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響等により、利用者数、利用率及び利用料金収入は減少</p> <table border="1" data-bbox="499 1491 1399 1688"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数（人）</td> <td>38,281</td> <td>37,269</td> <td>6,374</td> <td>7,950</td> </tr> <tr> <td>利用率（%）</td> <td>27.5</td> <td>30.6</td> <td>8.3</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>利用料金収入（千円）</td> <td>28,153</td> <td>26,088</td> <td>4,372</td> <td>6,379</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇観光庁事業を活用した財源確保（新たな事業展開の検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫活用額 R3：900万円、R4：1,900万円</li> </ul>		H30	R元	R2	R3	利用者数（人）	38,281	37,269	6,374	7,950	利用率（%）	27.5	30.6	8.3	10.8	利用料金収入（千円）	28,153	26,088	4,372	6,379
	H30	R元	R2	R3																	
利用者数（人）	38,281	37,269	6,374	7,950																	
利用率（%）	27.5	30.6	8.3	10.8																	
利用料金収入（千円）	28,153	26,088	4,372	6,379																	
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者数、利用率及び利用料金収入は低調。</li> <li>◆施設・設備の老朽化が進行。</li> </ul>																				

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□研修室は、大学生等にとって貴重な学習体験の場となる可能性を有しており、その積極的な活用に引き続き取り組み、設置目的も踏まえた上で幅広い利用者の拡大を企図されたい。諸外国の大学生を誘客し、彼らによる本施設の新たな価値創造を一緒に行っていることは高く評価できる。</p> <p>□自然豊かな環境に立地していることをベースとした既保有資源である森林やアウトドア活動に適している状況等の強みを伸ばさせる取組や民間事業者との連携等の取組を実施してきたことは高く評価できる。</p> <p>□近場で自然と触れ合える京北の地域資源と連携した新たな楽しみ方や、長期滞在しても費用負担が小さいワーケーションの拠点等として積極的に周知されたい。</p> <p>□今後、一気に利用者数が増加することは考えられず、新型コロナウイルスの影響を乗り切るための新たな戦略の立案が求められる。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p><b>継続</b></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎客層ごとのニーズを捉えた広報や運営の工夫により、効果的な利活用を更に図ること。</p> <p>◎宿泊と滞在の各機能や自然豊かな施設の強みを活かし、継続的な視点を持って、戦略的に運営を行うこと。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○従来からの大学や企業等の宿泊研修施設としての利用強化と、新たな視点による施設の魅力を活かした、利用者確保のための広報を行い、幅広く効果的な利活用を図る。</p> <p>○自然豊かな環境を活かし、地域とも連携しながらグリーンツーリズムに取り組むなど、多角的なニーズに応えられる運営を行う。</p>

●文化芸術会館

<p>前回検証結果</p>	<p><b>要改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した施設の改築や大規模補修のコスト負担が想定される中、施設の機能継承に向けた検討を進めること。</li> <li>・文化芸術の裾野を広げ、新しい文化芸術を育成する観点から、出演者と利用者の幅を広げ、特に若年層の利用率の向上を図ること。</li> </ul>																	
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年12月に「北山エリア整備基本計画」を策定する中で、文化芸術会館の機能を継承する施設として「舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）」の整備を検討中。</li> <li>・若手演劇人等の活動を支援するプログラムの企画を行い、出演者の幅を広げながら、若い世代の利用者数の増加を企画。また、施設使用料の学生料金の設定、公演のWEB配信及び他館での当館が企画した公演の実施など、より幅広い年齢層の利用促進に向けた取組を実施。</li> </ul>																	
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響で減少した利用率は回復傾向</p> <table border="1" data-bbox="504 887 1321 1032"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">利用率</th> <th>ホール</th> <td>76.9%</td> <td>64.3%</td> <td>43.4%</td> <td>75.7%</td> </tr> <tr> <th>展示室</th> <td>93.5%</td> <td>92.0%</td> <td>47.4%</td> <td>57.6%</td> </tr> </tbody> </table>			H30	R元	R2	R3	利用率	ホール	76.9%	64.3%	43.4%	75.7%	展示室	93.5%	92.0%	47.4%	57.6%
		H30	R元	R2	R3													
利用率	ホール	76.9%	64.3%	43.4%	75.7%													
	展示室	93.5%	92.0%	47.4%	57.6%													
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設・設備の老朽化が顕著。</li> <li>◆京都市内に類似施設が多く存在。</li> <li>◆利用者の年齢層が高く、50歳代以上の利用者が全体の70%を占める。</li> </ul>																	
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□施設の老朽化という課題に直面しつつ、府の資産として大きな貢献を果たされている。</li> <li>□機能継承に向けたスケジュールを踏まえ、施設の重要な部分の改修について様々な手法を検討するとともに、不経済な修繕費の発生を防ぐよう工夫されたい。</li> <li>□今後も引き続き、利用者の安心・安全を確保されたい。</li> <li>□施設の機能継承の意味と意義を再確認し、施設の顕在化した価値の次への継承を図られたい。</li> </ul>																	
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p><b>要改善</b></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎施設の老朽化の進行と、北山エリアでの文化芸術会館の機能継承を念頭に置いた舞台芸術・視覚芸術の拠点施設整備の検討状況を踏まえ、効果的かつ効率的な運営を行うこと。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○現施設の良さを活かしながら、当面は施設の機能を維持しつつ、機能継承に向けた整備の検討を引き続き進める。</p>																	

●京都学・歴彩館

<p>前回検証結果</p>	<p><b>見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置目的に照らした成果指標の設定が必要。</li> <li>・ホールの利用率向上のため、営業強化や教養教育共同化施設との連携を検討するとともに、施設運営の費用対効果の分析を行い、指定管理の導入の可否等について、速やかに検討を行うこと。</li> </ul>																																
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の活用及び京都学の発信に関する成果指標を設定。東寺百合文書 WEB PV 数等、目標を達成している部分もあるが、達成できていない項目については、引き続き、利用改善に係る取組を推進。</li> </ul> <p>&lt;成果指標項目&gt;</p> <p>資料の活用 → ①閲覧室入室者数 ②相談件数 ③出納件数 ④東寺百合文書 WEB PV 数 他</p> <p>京都学の発信 → ①自主講座等の開催数 ②展示室閲覧者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各業務を分析し、直営と民間事業者のどちらが効率的かつ・効果的に実施ができるかの観点で業務を整理の上、民間事業者による実施が適当な業務については、令和2年4月1日から指定管理者制度を導入。</li> <li>・指定管理業務である大ホール・小ホールの維持管理については、子ども（ベビーヨガ、恐竜教室等）から年配者（落語会、鉄道の歴史等）まで幅広い年代を対象とした自主事業を多数開催（R3:65回）。</li> </ul>																																
<p>取組の結果</p>	<p>◇資料の活用及び京都学の発信における成果指標は、概ね目標を達成。</p> <p><b>【達成率：資料の活用】</b></p> <table border="1" data-bbox="501 1240 1318 1473"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①閲覧室入室者数</td> <td>99%</td> <td>25%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>②相談件数</td> <td>111%</td> <td>80%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>③出納件数</td> <td>89%</td> <td>73%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>④東寺百合文書 WEB PV 数</td> <td>149%</td> <td>93%</td> <td>159%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【達成率：京都学の発信】</b></p> <table border="1" data-bbox="501 1532 1318 1671"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①自主講座等の開催数</td> <td>59%</td> <td>39%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>②展示室閲覧者数</td> <td>70%</td> <td>43%</td> <td>45%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ホールの利用率は大幅に改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率 大ホール H29:13.1% → R3:50.4%</li> <li>小ホール H29:16.7% → R3:64.6%</li> </ul>		R元	R2	R3	①閲覧室入室者数	99%	25%	33%	②相談件数	111%	80%	72%	③出納件数	89%	73%	65%	④東寺百合文書 WEB PV 数	149%	93%	159%		R元	R2	R3	①自主講座等の開催数	59%	39%	35%	②展示室閲覧者数	70%	43%	45%
	R元	R2	R3																														
①閲覧室入室者数	99%	25%	33%																														
②相談件数	111%	80%	72%																														
③出納件数	89%	73%	65%																														
④東寺百合文書 WEB PV 数	149%	93%	159%																														
	R元	R2	R3																														
①自主講座等の開催数	59%	39%	35%																														
②展示室閲覧者数	70%	43%	45%																														
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆直営と指定管理が混在している施設のより効果的・効率的な管理運営のあり方。</li> <li>◆一部指定管理（ホール等）の導入後の状況を踏まえた利用料金収入、利用者数及び利用率の更なる改善。</li> </ul>																																

<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<p>□京都府にとっても重要な課題である海外から招聘した研究者の研究成果や、研究者とのネットワークの維持を充実するとともに、招聘研究者との継続的な関係性の強化が行われることに期待し、その研究成果を積極的に府民に公表されたい。</p> <p>□施設の設置目的を明確にした上で、利用者ニーズを見極めたサービスの提供を模索されたい。</p> <p>□本施設は、「誰がどのように使えるのか」、「来館することでどのようなサービスが享受できるのか」の周知が及んでいないと思われる。</p> <p>□「京都学」を深めることの価値を担保するためのコストが、府民還元の視点からはバランスが取れていないと感じるため、府民及び京都府への有益性を可視化できる評価指標を構築し、公開されたい。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p><b>直営部分：</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要改善</span></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎府民に開かれた施設としての公共性、公益性について追求し、研究成果の積極的な公表やニーズを的確に捉えたサービスの提供など、より可視化した形で府民還元に取り組むこと。</p> <p>◎利用可能なサービスの積極的な発信を行うとともに、利用者のニーズに応じた施設の効果的な利活用を図ること。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○研究成果や所蔵品について、より積極的に公開し、明瞭な府民還元を努める。各種サービスについても広報を強化し、より利用者が来館しやすい環境を創出する。</p> <p>○利用率の低いエリア等の利活用を検討し、指定管理者とも連携して施設全体の積極的な利活用を図る。</p> <p><b>指定管理部分：</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">継続</span></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎設置目的に沿った取組を強化しながら、引き続き効果的な利活用を更に図ること。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○府民が京都の歴史や文化を学ぶとともに、その発展に寄与する事業等を強化しながら、施設機能を最大限に活かし、幅広く効果的な利活用を図る。</p>

●青少年海洋センター

<p>前回検証結果</p>	<p><b>要改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設改修を踏まえ、施設目的に対する重点課題やコンセプトを明確にし、地域資源を活用した新規顧客確保など、利用者数の拡大を図ること。</li> </ul>																				
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の変化や少子化によるメインターゲット層である青少年の減少により、青少年のみを対象とした運営が難しくなっている中、設置目的に沿った利用を妨げない範囲で新たな誘客の拡大を推進。</li> <li>平成29年度の施設改修で野外炊事施設、ボルタリング場及びトレーニング場を新設し日帰り利用できる設備が増加。また、宮津市が併設している体育館に、冷暖房設備及びレスリングマット2面が整備されたことにより、高校レスリング部の合宿等の新たな利用が実現。</li> <li>新たな利用層の確保や学校の利用が少ない閑散期（10月～3月）の利用者増加を図るため、以下の取組等を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→家族単位での利用を促進のするため、「親子」を対象にしたカヌー体験や野外炊事体験のプログラム。</li> <li>→一般区分（大学生）の利用促進のため、大学生協京都事業組合と連携した施設の紹介。</li> <li>→企業の利用促進のため、新入社員研修会場を提案した営業活動（利用予約後、令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンセル）。</li> </ul> </li> <li>施設改修後、無料公開日を設けて、地元住民等へ周知。地域と連携して実施した「クリスマス会」・「宮津田井海まちフェスタ」では、年配の方から若者まで多くの地域住民の参画がある等、地域交流拠点の役割及び今後の可能性を確認。</li> </ul>																				
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成29年度のリニューアルにより、宿泊者数、利用率及び利用料金収入は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少。</p> <table border="1" data-bbox="491 1536 1401 1729"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊者数（人）</td> <td>14,025</td> <td>14,968</td> <td>14,692</td> <td>4,014</td> </tr> <tr> <td>宿泊室利用率（%）</td> <td>31.2</td> <td>47.3</td> <td>46.6</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>利用料金収入（千円）</td> <td>18,550</td> <td>20,829</td> <td>21,712</td> <td>5,545</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H30	R元	R3	宿泊者数（人）	14,025	14,968	14,692	4,014	宿泊室利用率（%）	31.2	47.3	46.6	30.8	利用料金収入（千円）	18,550	20,829	21,712	5,545
	H28	H30	R元	R3																	
宿泊者数（人）	14,025	14,968	14,692	4,014																	
宿泊室利用率（%）	31.2	47.3	46.6	30.8																	
利用料金収入（千円）	18,550	20,829	21,712	5,545																	
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成29年度のリニューアルを活かした利用料金収入、利用者数及び利用率の更なる改善。</li> <li>◆閑散期の利用者増加を図るため、新たな利用者の確保。</li> </ul>																				

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□Wi-Fi完備、ボルダリング、トレーニングルーム、野外炊事場及び冷暖房完備の体育館等の設備を活用した施設の魅力向上は図られており、今後、京都市内の小学校等の学習・研修の誘致や閑散期での企業研修の誘致等に注力するなど施設の認知度の向上により更なる利用を促進されたい。</p> <p>□青少年向けの宿泊機能が中心とした施設ではあるが、トレーニングルームや体育館等、地域住民の利用者の門戸を更に広げる方策に期待したい。</p> <p>□京都にも美しい海があることを知らない京都の子どもたちが多いことは非常に残念であり、特に京都市内の小中高生等に本施設を積極的に体験してもらいたい。</p> <p>□令和3年度の府内利用者の比率が49%にとどまることから、京都市内の小中高を誘致する等、府内利用者を増やすため、積極的に取り組まれたい。</p>
<p>京都府の検証結果 及び対応方向</p>	<p><b>継続</b></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎改修した施設の独自性を活かした利用者満足度の向上を企図した事業の展開及び府内利用者の拡大に主眼を置いた取組の強化により、効果的な利活用を図ること。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○宮津市や周辺企業と連携した地域活性化に貢献するイベントを定期的実施し、地域の交流拠点として更なる効果的な利活用を図る。</p> <p>○京都市内や府南部の小中学生を中心に、府民の施設利用の働きかけを強化し、府内からの利用を増進する。</p> <p>○閑散期の利用者数増加に向け、引き続き、大学生協京都事業連合等との連携や企業研修の誘致に注力する。</p> <p>○広報活動を強化し、施設の認知度向上と魅力PRを図る。</p>

●けいはんなオープンイノベーションセンター

<p>前回検証結果</p>	<p><b>継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い公共サービスのイノベーション創出拠点としての更なる利用促進により、有効性を更に向上させること。</li> <li>・国際的なオープンイノベーション拠点として相応しい機能等を検討すること。</li> </ul>
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発企業の集積が進み、加えて実証拠点としての新たな機能強化を図ることで施設の有効性の向上に寄与。</li> <li>・ロボットやドローン開発のための5G基地局や屋外自動走行場、3Dプリンターやレーザー加工機の共同利用の場等、実証環境の整備によりオープンイノベーション機能を向上（R3.4～）。</li> <li>・「けいはんなロボット技術センター」では、次世代ロボット等の開発・実証のため、中小企業・ベンチャー・研究機関等が共同利用できる従来の機能に加え、学生ロボットチーム、社会人オープンソース研究会など、業界コミュニティとの連携を活かして認知度向上を図り、ロボット競技の全国大会等を誘致（H30.11～）。</li> <li>・「SEIKAクリエイターズインキュベーション」では、周辺の精華町、木津川市に住む小中学生向けの科学体験教室やロボット教室等、多様な教室やイベントを定期的に開催し、日本のものづくりを担う次世代のエンジニア育成にも寄与（R2.4～）。</li> <li>・国際博覧会「スマートシティエキスポ」、ロボット競技の国際大会である「RoboMaster」（H30.11）や「ロボカップジュニアジャパン」（R4.4）等の大会を誘致。</li> <li>・2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた開発・実証を行う企業を誘致し、グローバルオープンイノベーションを推進。</li> </ul>
<p>取組の結果</p>	<p>◇施設の活用状況は年々増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究スペース入居率：H29：76.5%→R元：84.1%→R3：90.4%（延べ32プロジェクト）</li> <li>・遠隔・非接触・非対面サービスの需要増にともない、けいはんなロボット技術センターの利用率が増加（R3：前年比59%増）</li> </ul>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設利用率の更なる向上に向け施設の賃貸可能面積を拡張させるには、大規模改修や電源増強など大幅なハード整備予算の確保が必要。</li> <li>◆大空間など未利用スペースを活用した大型プロジェクトの誘致活動の推進。</li> </ul>



<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□新産業の創出・育成という京都府、そして日本にとっての大きな課題・目標と照らし合わせると、同種・類似の施設が存在しない本施設の存在意義は大きい。</p> <p>□長期的に施設を維持するため、中長期的な戦略立案と実践を図るとともに、本施設の独自性や意義を国内外へ積極的にアピールし、学会、会議及び競技大会等を誘致等するなど、府民の理解を深められる事業を実施することに期待したい。</p> <p>□設置目的に沿った事業面の課題と施設インフラ面の課題は、それぞれ分けて捉えた解決を図り、継続したイノベーションの創出に必要な支援を図られたい。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p><b>継 続</b></p> <p>&lt;改善方策&gt;</p> <p>◎事業者支援の機能を活用した中長期的な戦略により、有効性を更に向上させること。</p> <p>◎設置目的に照らした施設の有効性について、府民の理解を深める情報発信や府民参加型の取組を検討すること。</p> <hr/> <p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○大型プロジェクトの誘致を本格化する等、関西文化学術研究都市の研究開発・社会実証フィールドとしてのポテンシャルを生かした産学公連携によるオープンイノベーションの取組を促進する。</p> <p>○オープンイノベーション拠点として相応しい事業成果を発信するとともに、次世代の人材育成に繋がる取組の強化を図る。</p>